

自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト

平成23年度事業報告



平成24年3月

(財) 日本交通安全教育普及協会

はじめに

近年自転車の利用が盛んになっており、子どもから高齢者まで幅広く利用されています。これは、自転車が手軽で利便性の高い交通手段であること、健康・体力づくりのために有用であること、また公害を発生させない省資源型の移動手段であることなどによるものです。

しかし、自転車の交通事故については、事故件数や死傷者は全体としては減っているものの、平成 23 年においては交通事故死者の 13.6%、負傷者の 16.8%を占めています。また、15 歳以下の者は、自転車乗用中の死傷者全体の 19.8%を占め、16～24 歳層の 21.2%に次いで多くなっています。

子どもにとって自転車は、歩行に次ぐ交通社会での第二のステップであり、この段階において安全意識、安全行動の基礎を形成することが必須です。また、子どもたちが安全意識、安全行動の基礎を形成する上において、地域における関係者の連携ということも非常に重要であります。私ども財団法人日本交通安全教育普及協会は、このような観点から、自転車の交通安全教育に力を注いでいるところであります。

当協会では、この一環として、平成 19 年度から各方面の協力を得て埼玉県において、全国のモデル事業となる「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト」事業を実施してきました。この事業は、幼稚園・保育園・小学校の幼児・児童やその保護者を対象とし、地域の学校、警察や関係機関、関係団体等が一体となった参加・体験型の自転車交通安全教育を行うもので、幼児や児童が保護者と一緒に自転車の安全な乗り方を学び、交通安全意識・交通安全行動を向上させるとともに、この事業に地域が協働することを通じて地域の交通安全、ひいては安全・安心なコミュニティづくりに貢献することを目的としております。

平成 23 年度におきましては、埼玉県の 10 か所の幼稚園・保育園・小学校において「自転車安全教室・自転車点検教室」を開催しました。これは、幼児・児童やその保護者を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成するものでありますが、あわせて、地区のリーダーにも参加していただき、地域における指導者の養成にも努めました。

また、さいたま市・上尾市内の小中学校の教員に対し、児童生徒への実践的な自転車指導方法について「交通安全指導者研修会」を実施し、さらに、小中学校における自転車の交通安全教育に資するために昨年度作成した「安全教育指導プログラム」の活用を図りました。

平成 23 年度の事業についてご協力をいただきました各方面の関係者やブリヂストンサイクル株式会社に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

財団法人日本交通安全教育普及協会

専務理事 川口 雄

目 次

はじめに

1. 事業の概要	1
2. 自転車交通安全教育推進委員会	5
3. 事業の内容	9
(1) 自転車交通安全教室の実施	
(2) 自転車啓発パンフレットの作成配布	
(3) 交通安全教育の授業研究会の実施	
(4) 新たな安全教育プログラムの改訂	
(5) 自転車交通安全教育ソフトの作成	
(6) 調査研究委員会の開催	
(7) 事業の考察と課題	

1. 事業の概要

1. 事業の概要

◆事業の目的

近年、交通事故死者数や交通事故件数は減少傾向にあるものの、全交通事故に占める自転車事故の割合は依然として高く、自転車をめぐる交通情勢は厳しい状況にある。

本事業では、自転車が最初の身近な乗り物となる小学生に対して、自転車の安全な利用の仕方を学ぶ交通安全教育を推進すると同時に、地域での指導者養成を図りながら、地域全体の自転車運転技能やマナーを向上させ、安全・安心の街づくりに包括的に貢献することを目的とする。

◆テーマ

地域を核とした小学生への自転車交通安全教育の展開と体制の確立

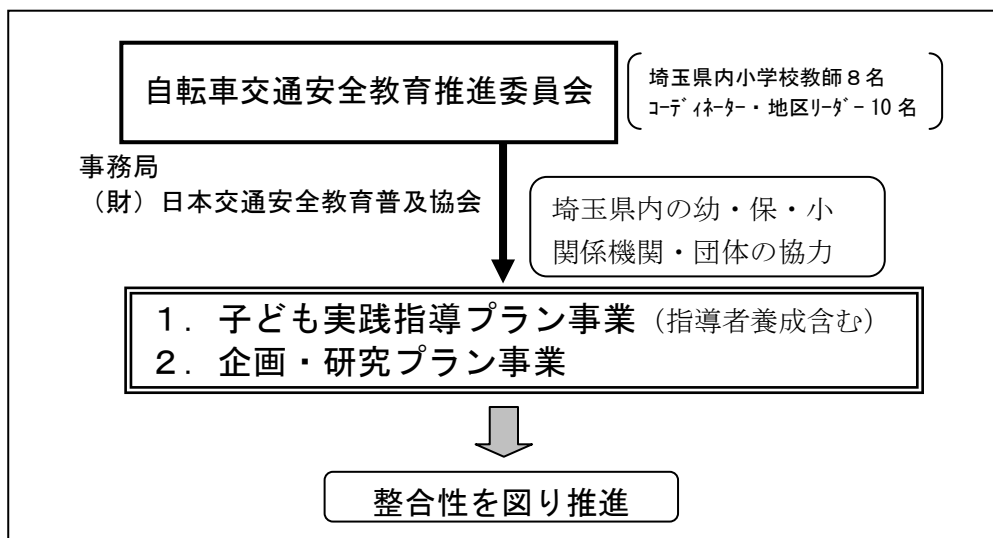
◆事業の背景

- ・自転車利用者が守る「ルール・マナー」態度が悪化（子供～大人）
- ・自転車事故が増加傾向（加害者：小学生 被害者：高齢歩行者）
- ・躰の一環とした小学生からの交通安全教育が重要

◆具体的目標

- ・地域を主体とした指導カリキュラムと体制の確立
- ・地域内での自転車事故削減と交通安全意識の向上

◆実施体制と事業



2. 自轉車交通安全教育推進委員会

2. 自転車交通安全教育推進委員会

◆目的

本委員会は「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト事業」（以下「本事業」という）の円滑且つ効果的な推進を図ることを目的とする。

◆事業

本委員会は、上記 1 の目的を達成するために次の事業を行う。

- ①委員会を開催し、必要な事項の検討等を行う。
- ②小委員会（調査研究委員会）の開催
- ③必要に応じて「本事業」への指導、協力、視察等を行う。
- ④その他、本委員会の目的達成に必要な事業を行う。

◆小委員会（調査研究委員会）

本委員会は、上記 2 の事業を推進するために、必要に応じて調査研究委員会を設置し、次の事業を実施する。

- ①小学校の児童・教師・保護者向け交通安全教育用教材の作成・普及
- ②園児・児童対象のアンケート分析に基づく研究協議
- ③その他、必要とされる事業

◆事務局

本委員会の事務局は、（財）日本交通安全教育普及協会に置き、次の事項を執行する。

- ①本委員会の開催等に関すること。
- ②各委員の委嘱や連絡調整等に関すること。
- ③関係資料等の作成や文書の処理等に関すること。
- ④その他、必要事項等に関すること。

◆その他

- ①本委員会の委員は、別紙のとおり。
- ②本委員会要項の実施に関し必要な事項は本委員会において決定する。
- ③本委員会要項は、平成 19 年 4 月より施行する。

平成 23 年度自転車交通安全教育推進委員会 委員名簿

※敬称略・順不動

No.	氏名	所属	備考
1	猪狩一史	朝霞市立朝霞第五小学校 教諭	(調査研究委員兼務)
2	伊藤正和	狭山市立南小学校 教諭	(調査研究委員兼務)
3	渡辺 中	富士見市立関沢小学校 教諭	(調査研究委員兼務)
4	関根祐一	所沢市教育委員会 指導主事	(調査研究委員兼務)
5	永嶋和実	さいたま市立日進小学校 教頭	(調査研究委員兼務)
6	細内滋実	入間市立藤沢南小学校 教諭	(調査研究委員兼務)
7	西山 学	さいたま市立大宮北小学校 教諭	(調査研究委員兼務)
8	柴崎正司	地区コーディネーター	
9	岩崎てる子	地区リーダー	
10	岡安節子	地区リーダー	
11	桜井英二	地区リーダー	
12	佐藤紀彰	地区リーダー	
13	星野裕子	地区リーダー	
14	渡辺雅子	地区リーダー	
15	小宮道子	地区リーダー	
16	吉野 房子	地区リーダー	
17	松本 達明	地区リーダー	

※No.1～7 の各委員の所属は平成 23 年 4 月 1 日現在

※地区コーディネーター・地区リーダー

(交通安全活動に限らず、日ごろ地域のために積極的かつ継続的にボランティア活動をされている警察関係、自治会関係、青少年育成関係等の方々です。)

◇事務局

1	西 則光	(財) 日本交通安全教育普及協会 常務理事
2	成迫俊美	(財) 日本交通安全教育普及協会 主幹
3	石川英司	(財) 日本交通安全教育普及協会 課長

3. 事業の内容

3. 事業の内容

(1) 自転車交通安全教室の実施

さいたま市・上尾市内の幼稚園、保育園、小学校の園児・児童を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車交通安全教室を計9回実施。指導者の養成を図るため地区リーダーも参加。

幼稚園・保育園

①大宮保育園（さいたま市）

期 日：平成23年5月27日（金） 午前10時～11時

会 場：大宮保育園「講堂」

参加者：大宮保育園園児 23名

指導者：交通指導員、地区リーダー（補助）

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



②大成保育園（さいたま市）

期 日：平成23年6月1日（水） 午前10時～11時

会 場：大成保育園「講堂」

参加者：大成保育園園児 23名

指導者：交通指導員、地区リーダー（補助）

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



③普門院幼稚園（さいたま市）

期 日 : 平成23年6月3日（金） 午前10時45分～11時45分
会 場 : 普門院幼稚園「講堂」
参加者 : 普門院幼稚園園児 158名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー（補助）
内容 : 腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



④大成幼稚園（さいたま市）

期 日 : 平成23年6月23日（木） 10時45分～11時45分
会 場 : 大成幼稚園「講堂」
参加者 : 大成幼稚園園児 61名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー（補助）
内容 : 腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



小学校

⑤日進北小学校（さいたま市）

期 日 : 平成23年6月14日（火）〈1年生〉10時40分～11時25分
 〈3年生〉13時30分～15時

会 場 : 日進北小学校「グラウンド」
参加者 : 日進北小学校 〈1年生〉145名 〈3年生〉142名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー（補助）
内 容 : 〈1年生〉 信号の意味、横断歩道の渡り方
 〈3年生〉 点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法
 基本走行（信号交差点、信号のない交差点、
 駐車車両の側方走行）、総合走行



⑥大成小学校（さいたま市）

期 日 : 平成23年7月2日（土） 13時～15時

会 場 : 大成小学校「グラウンド」

参加者 : 大成小学校 2・3・4年生 68名

指導者 : 交通指導員、地区リーダー（補助）

内 容 : 点検・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法

基本走行（信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行）

総合走行



⑦上尾小学校（上尾市）

期 日：平成23年7月12日（火）13時20分～15時20分

会 場：上尾小学校「グラウンド」

参加者：上尾小学校 3年生 123名

指導者：交通指導員、地区リーダー（補助）

内 容：点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法

基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）

総合走行



⑧東小学校（上尾市）

期 日：平成23年10月4日（火）13時30分～15時20分

会 場：東小学校「グラウンド」

参加者：東小学校 3年生 135名

指導者：交通指導員、地区リーダー（補助）

内 容：点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法

基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）

総合走行



⑨芝川小学校（さいたま市）

期 日 : 平成23年10月15日（土） 14時～15時30分
会 場 : 芝川小学校「校舎前」
参加者 : 芝川小学校 児童・保護者 約120名
指導者 : 自転車整備士（ブリヂストンサイクル株）
内 容 : 参加者が持参した自転車の点検指導



⑩上平小学校（上尾市）

期 日 : 平成23年10月25日（火） 13時30分～15時20分
会 場 : 上平小学校「グラウンド」
参加者 : 上平小学校 3年生 120名
指導者 : 交通指導員、地区リーダー（補助）
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法

基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）
総合走行



自転車安全運転証の交付

自転車交通安全教室に参加した小学校の児童に交付。法的な効力性はないが、本事業に参加した証として子ども達の誇りと励みになり、今後自転車を「車両」として利用する自覚や意識の定着化を促進するために交付。

自転車安全運転証			
氏名	〇〇〇〇	平成	年 月 日生
学校名	〇〇市立〇〇小学校	血液型	型
写真	番号 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
	交付 平成 2 3 年 月 日		
財団法人日本交通安全教育普及協会			

(2) 自転車啓発パンフレットの作成・配布（児童向け）

家庭における自転車の基本的なルールやマナーの周知を図るために児童向け自転車啓発パンフレットを作成配布

配布数 : 20,000部

配布先 : 主としてさいたま市および上尾市内の小学校140校

配布時期 : 平成24年3月中旬

配布対象 : 小学4年生の児童

じてんしゃこうつうあんぜん
自転車交通安全

子ども掲示板

自転車の事故をなくすために！

埼玉県では、自転車による死亡事故が最も多く起っており、大きな問題となっています。
このような事故に巻き込まれないために、自転車に乗るときには、十分注意してください。

じてんしゃりようしや
自転車利用者が
加害者に！

すうばんばんえん ばいしやうばん
数千円の賠償金を
支払うことも

こうつう
交通ルールを
違反すると罰金も

基本的な渡り方

5つのやくそく

習慣づけよう **ま・み・む・め・も**

ま

まつ…黄色と青のチカチカ信号は
絶対に渡り始めてはいけないという合図だよ。
次の青信号まで待とう！

み

みる…飛び出しはきけん！
横断する前に止まって、左右、後ろをよく見て
安全をたしかめよう！

む

むりをしない…せまい近道は
あぶない！無理をしないで
少し遠回りになっても、きけん
の少ない安全な道を走ろう！


め

めだつ服装…夕暮れのと
夜の夜は、明るいめだつ服装と
遠くからでも相手に見える
反射材を身につけよう！

も


もしかして…急に車や自転車が
もしかして飛び出てくるかも
しれない。あぶないことを予想する
ことは自分の命を守ることになる。

交差点の走り方



信号機のあるところ


右折するときは安全を確認、前方の青信号で直進して、交差点の向こう側で止まり向きを変え、信号が青になったら安全を確認直進する。




信号機のないところ

〈右折するとき〉
安全を確認、道路の左側に寄って交差点の向こう側まで直進して、速度を落とし、安全確認をして右折する。

〈左折するとき〉
前後左右の安全を確認、道路の左しに沿って曲がる。



「自転車横断帯」を通って、交差点を横断する。



横断歩道を通行するとき、歩行者がいる場合は自転車を押して渡る。

自転車に乗る前に点検しよう

反射器材がなかったりこわれていませんか。

スタンドはしっかり立ちますか。

チェーンはゆるんでいた、り、さびていませんか。



サドルはしっかり固定されていますか。高さは合っていますか。

ハンドルはガタガタしていませんか。

ペダルは鳴りますか。ブレーキはききますか。ライトはしっかりつきますか。

ペダルの正しい踏み方




タイヤに空気は十分入っていますか。

ブレーキはききますか？

イヤに空気は入っていますか？

ベルは鳴りますか？

サドルは高くないですか？

ライトはつきますか？

ハンドルはガタガタしていませんか？

チェーンはゆるんでいませんか？



飛び出しは危ないよ！必ず止まって、前後左右の安全を確認しよう！



黄色と青の子カチカは、渡り始めてはいけないという合図だよ！



ヘルメットを着けてからね！

自転車に乗るときは、ヘルメットを着けよう！

編集・発行
(財) 日本交通安全教育普及協会
〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-20
TEL 03-3478-1831 FAX 03-3478-1835 URL <http://www.jatras.or.jp/>

無断で本書の全部又は一部の転載を禁じます。

(3) 交通安全教育の授業研究会の実施

当協会が昨年度作成した教師用指導資料「新たな安全教育指導プログラム」を学校現場での公開授業を通して活用し、教師が児童の危険予測回避能力を一層高められる効果的な授業づくりの展開方法を学習し、もって教師の指導力向上を図る。

①上尾会場

期 日 : 平成23年9月27日(火)

会 場 : 上尾市立東小学校

後 援 : 上尾市教育委員会

参加者 : 上尾市内の小・中学校教師

内 容 : 授業研究(13:45~14:30)

授業者 長嶋志織 先生(3年生担当教諭)

テーマ 「止まっている車をよけるとき」

研究協議会(15:00~16:25)

司 会 猪狩一史 先生(朝霞市立朝霞第五小学校 教諭)

指導助言者 浅沼正義 先生(上尾市教育委員会 指導主事)



第3学年2組 学級活動指導案

平成23年9月27日(火)第5校時

場所 第3学年2組 教室

児童数 33名

指導者 長嶋 志織

- 1 題材 「止まっている車をよけるとき」
内容 (2) 「日常生活や学習への適応及び健康安全」

2 児童の実態と題材設定の理由

本学級の児童の多くは、外で活発に遊び、自分の仕事も進んで取り組むことができる。学級全体の取り組みとして、生活班の中で児童それぞれに役割を与え、自ら学習・生活のきまりを守ろうとする意欲を高めている。また、互いに意見を聞き合う等の言語活動の時間を、学習活動の中に多く取り入れている。

4月当初、廊下歩行の徹底ができず、出会い頭の衝突が何件かあったが、学年全体で指導することにより、改善傾向にある。また、登下校時に広がって歩いたり、車が来ているにも関わらず、端によけるなどの瞬時の行動ができない児童が見受けられた。

交通安全の基本的な知識や自転車の乗り方については、これまでの安全教育により理解していると思われるが、本校では、3年生から、児童だけで学区内を自転車を運転できるようになるため、安全に気をつけて走行していても、思わぬ事故にあうことも考えられる。また、危険を予測しながら自転車を運転している児童は少ないと考える。そのため、児童自ら危険を予測し、回避する能力を身につけるべきであると考え、本題材を設定した。

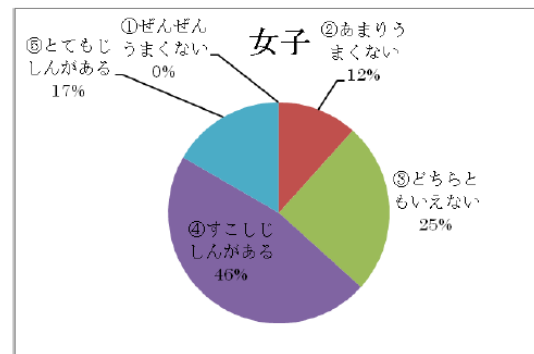
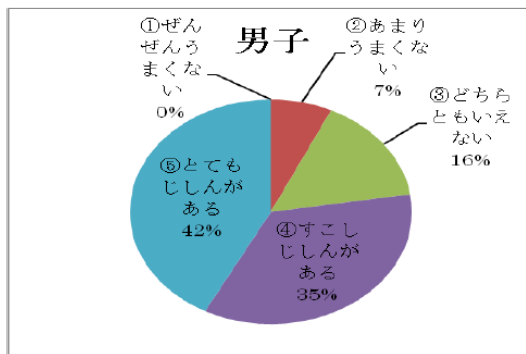
児童の交通安全の意識や行動の実態をより明確にするために、事前調査を行った。自転車の運転に関する項目の調査結果は、次の表1の通りである。

(表1)

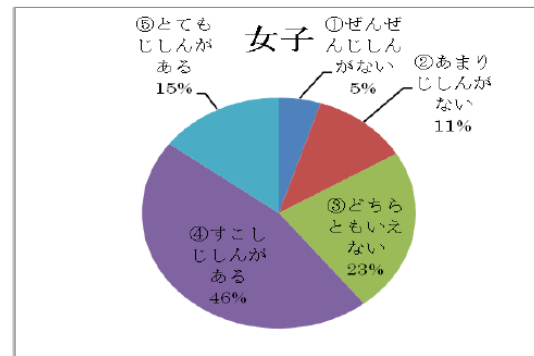
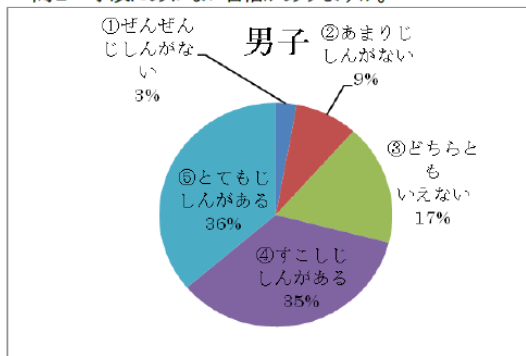
アンケート調査実施日 9月2日(金)

人数 133名

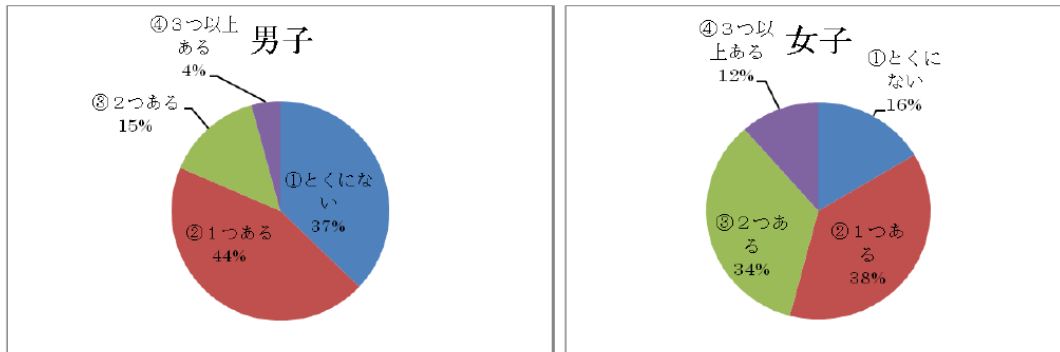
問1 自転車の運転はうまい方だと思いますか。



問2 事故にあわない自信がありますか。



問3 自転車の運転について気をつけていることがありますか。

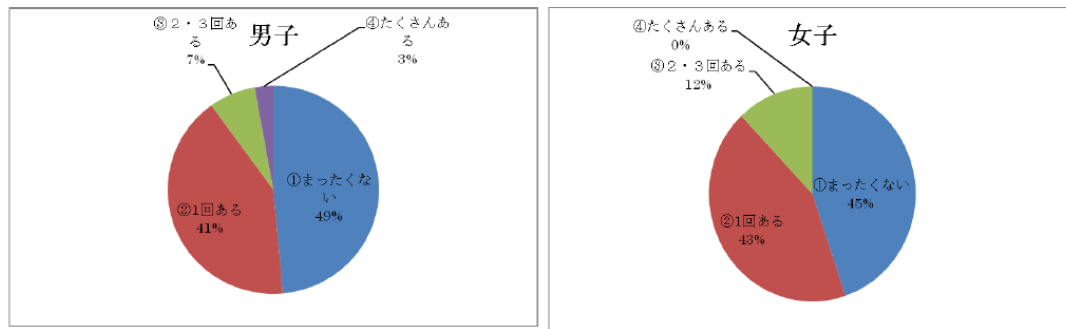


問4 問3で「ある」と答えた人は、気をつけていることを教えてください。

〈上位3つ〉

1. 左右を確認する。37人
2. 飛び出しをしない・一時停止を守る。22人
3. スピードを出さないようにする。10人

問5 自転車にのって、ドキッしたりヒヤリとしたことがありますか。



問6 問5で「ある」と答えた人は、一番今に近いときのことについて簡単に教えてください。

〈上位3つ〉

1. 自動車が飛び出てきた。(横・後ろから) 12人
2. 自動車とぶつかりそうになった。9人
2. 自転車とぶつかりそうになった。9人

以上のことから、自転車で走行中、飛び出てきた自動車と衝突しそうになったり、自転車同士の事故になりそうになった経験をしている児童が全体の60%近くいることが分かった。しかし、自転車の乗り方や事故に合わない自信がある児童が男女ともに半数を超える結果となった。生活している中で、事故を目撃したり、自分自身で危険を感じる体験をしているにも関わらず、自転車の運転に自信がある児童が多いことから、危険を予測・回避する力を身につけるべきであることがアンケート結果からも検証できる。

指導案 (3/5)

3 指導のねらい

交通事故の多くは、危険意識の乏しさや危険に気づくのが遅れたりすることに起因している。したがって、交通場面では、予測される危険を読み取り、事前にその危険を回避する能力・態度を身につけることが事故防止に極めて有効であると言える。

本題材では、「なぜ危険なのか」「どうすれば安全なのか」について、児童が自らの課題として捉えられるようにし、じっくり考えさせ、思考力や判断力を高め、適切な意志決定や行動選択ができるように学習を進めていく。その際、危険を予測し、回避する能力・態度を身につけられるような授業展開を工夫していきたい。そこで、学習の効果をより高めるために、以下7点に留意して指導を行っていく。

- ① 児童の「危険予測・危険回避」や周囲への配慮についての意識を定着させ、高めるために、継続的・持続的な指導を行う。
- ② 児童(学級、学年)の全体的な傾向、課題を浮き彫りにできるよう、内容・項目を検討した事前調査を行う。
- ③ 自分たちの問題として意識させるため、生活基盤である学区の中からの場面設定を行う。
- ④ 潜在する危険を「人的要因(人の行動や心理)」と「環境要因(標識や道路状況等)」の両面から整理していく。
- ⑤ 具体的な行動をめあてとし、自己評価や相互評価がしやすいようにする。
- ⑥ めあての提示や、取り組みの日常的な振り返りを行い、安全行動への意識と実践の意欲を継続させる。
- ⑦ 交通安全について、家庭(保護者)と意識を共有する。

また、危険予測の教材として動画を活用し、児童の危険予測のイメージをふくらませていきたいと考える。

4 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
自転車の安全な乗り方に関心を持ち、今後の生活に活かそうとしている。	安全な自転車の乗り方を身につけるために、危険予測や回避の方法を考えようとしている。	事故にあわないために、安全な自転車の乗り方を理解している。

5 事前指導

- ① 児童の実態調査(交通安全についての意識・行動アンケート)
- ② 実態調査の集計、分析

6 学校研究課題との関連

学校研究課題	『心豊かに 「よりよく生きる」 東っ子の育成』
--------	-------------------------

「よりよく生きる」ということは、様々な場面において、自分のもっている力を生かして、予測し判断して、行動していくということである。交通安全という題材を通し、危険予測することの大切さに気づくことにより、自己の課題を見出し、判断し、行動できる力がついてくると考えた。

7 教育に関する3つの達成目標との関連

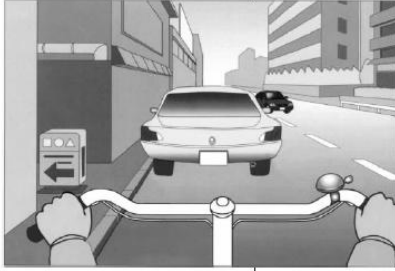
(1) 「規律ある態度」

- ・「～です(か)」、「～ます(か)」、「をはっきり言うことができる。
- ・先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、発表することができる。

8 本時のねらい

- ・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。(対向車等)
- ・停車車両を避けて通る際の、安全行動を身に付けられるようにする。
- ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した自転車の運転ができるようにする。

指導案 (4/5)

9 展開			
段階 (時間)	学習内容・活動内容	指導上の留意点(・)と評価(☆)	教材 資料
導入 【10分】	<p>○問題を把握する。</p> <p>1 事前調査結果や最近の事故ニュースなどから、感じたことを発表する。</p> <p>2 問題場面を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自転車で止まっている車を追い越そうとしています。 どんな危険がかくれていますか？</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔場面の読み取り〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車に乗っている。 ・縁石があって、歩道に入れない。 ・左側は狭くて通れなさそう？ ・右から追い越さないといけない。 ・車の中の様子は？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「交通事故の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。 ・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。 	<p>調査結果表 場面絵…文部科学省指導教材「次はどうなる？」 ワークシート</p>
	<p>3 起こりうる事故を予測する。</p>	<p>T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〔予想される児童の反応〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車を右側に避けると、前の赤い車とぶつかる。 ・車を右側に避けると、後続車とぶつかる。 ・車の前から人が出てきてぶつかる。 ・自動車のドアが開いてぶつかってしまう。 </div> <p>・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。 (なぜ危険なのか理由を明らかに)</p> <p>・交通場面をより身近に感じさせる。【再現動画】</p> <p>☆交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できる。 〔関心・意欲・態度〕</p>	<p>大型テレビ</p>
	<p>4 事故の原因を整理する。</p>	<p>T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 <p>【再現動画】</p>	<p>大型テレビ</p>

	<p>【人的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認をしない (めんどうくさい) ・油断 (たぶん、大丈夫だろう) ・避けようとして大きく対向車線にはみ出てしまう。(運転技術) 	<p>【環境要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停車車両による死角 (対向車・横断者) ・縁石のため左側の歩道に入れない。 ・後続車の危険 ・停車の目的 (降車のためドアが開き衝突) 	
	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車は急に右側に進路変更すると、同様の後続車から追突される。 ・停車車両の脇を通過中、降車のため急に右側のドアが開き衝突する。 ・前方の赤い車と逃げ場がなくなり衝突。 		
<p>展開 【28分】</p>	<p>○仮説を設定する。 5 危険回避方法 (安全行動) を選定する。</p>	<p>T 「どうしたら危険を防ぐことができますか? 安全な行動を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら班ごとに発表させる。 ・単に「一旦停止する」「安全確認をする」というのではなく、交通場面の特徴等を含め具体的に発表させる。 ・車で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。 	<p>ワークシート</p>
	<p>学習のポイント</p> <p>「相手からの視点」 → 対向車からは、自分が見えない。出て来ると思わない。 「安全のための行動」 → 停車車両の様子に気を配り、対向車・後続車の確認をしてから側方を徐行することが大切。 より安全な行動としては自転車を停車降車して安全確認。</p>	<p>○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法 (安全行動) を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。 【再現動画】 ・重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。 	<p>短冊・マジック・大型テレビ</p>
<p>終末 【7分】</p>	<p>○安全行動を適用する。 7 安全行動を実践化できるようにする。</p>	<p>T 「止まっている車を安全に追い越すためのめあてを考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 <p>☆交通社会の一員として、周囲へ配慮した自転車の運転のめあてを立てることができる。 【思考・判断・実践】</p>	<p>ワークシート</p>
<p>10 事後指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ①めあてを教室内に掲示し、交通安全への意識化を図る。 ②めあてをもとに自分の生活についてふり返り、安全に自転車を走行しようとする意欲を高める。 ③家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。 ④事後アンケートを実施し、児童の意識調査をする。 			

②さいたま会場

期 日 : 平成23年12月5日(月)

会 場 : さいたま市立大宮北小学校

後 援 : さいたま市教育委員会

参加者 : 大宮北小学校教師

内 容 : 授業研究(13:55~14:40)

授業者 中村誠先生(6年生担当教諭)

テーマ 「自転車で歩道を走行すると?」

研究協議会(15:10~16:30)

司 会 細内滋実先生(入間市立藤沢南小学校 教諭)

指導助言者 坪井俊治先生(八潮市立八幡小学校 教頭)



第6学年2組 学級活動指導案

12月5日(月)
指導者 中村 誠

1 題材「自転車で歩道を走行すると？」 活動内容(2) ー危険予測学習ー

2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は明るく活発で、休み時間も元気に遊ぶ児童が多い。その反面、校庭のみでなく、校舎内でも活発で、安全上での事故になりかねない場面も見られた。アンケート調査をみると、質問1「自転車の運転は上手だと思いますか？」との質問に、「少し自信がある」「とても自信がある」と答えた児童は、日常生活で安全上の配慮が少し足りないと考えられる児童が多くいた。また、質問2「あなたは事故にあわない自信がありますか？」との質問でも、同様の傾向がみられた。このことから、交通ルールや安全について自信をもっている児童の多くは、安全上の配慮が少し足りないと考えられる。

(2) 題材設定の理由

ここ数年、交通事故件数は非常に多い現状が続いている。児童・生徒の交通事故件数も同様で、特に自転車による事故の件数が多い。警察を中心とする各関係諸機関で様々な取組を行い、学校でも交通安全教室等の様々な取組が行われている。

では、なぜ事故が減らないのか。その大きな原因の一つとして、児童が予め危険を予測できていないことがある。これから起こりうる危険を予測できれば、慎重な行動をとり交通事故をかなり減らすことができると考えられる。つまり交通事故予防には、“危険への気づき”が重要である。そして“危険への気づき”は、学習やトレーニングによって高められるのである。危険予測学習は、イラストなどの交通場面を使い、交通状況の読み取りや、顕在・潜在する危険を予測して、事前に回避方法を児童が主体となって考えられる学習である。

3 評価の観点・規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
どのようなことに気をつけると事故が防げるか進んで考えている。	危険を予測し、その対処方法を工夫して考えている。	交通事故を防ぐための注意点に気づき、安全な行動をとることができる。	これから起こるかもしれない見えない危険があることを理解している。

4 本時のねらい

- ・自転車で通行可能な歩道を走行する際、当然歩行者のためのものであることを理解する。
- ・ガードレール等で区切られていて、歩行者等を避けるスペースが少ない等の危険を予測して、状況に応じた安全な走行ができる。


5 事前指導

- 事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート）※7 資料1参照
- 事前調査の集計、分析

6本時の展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料
はじめ	○問題を把握する。 1 最近の事故事例を聞く。 2 問題場面を知る。	・身近な事故事例などから、自転車で走行中の危険性を知る。	身近なデータや資料
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">このまま自転車で歩道を走行するとどんな危険が予想できますか？</div>		

指導案 (2/5)

	<p>○場面分析をする。 3 「次はどうか？」のOHPシート7を見て、予測した危険や予想される事故について考える。</p>	<p>T「このまま自転車で歩道を走行するとどんな事故が起きるでしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OHPシートを提示して考えさせる。その際に、どのような状況なのか確認する。 ・ワークシートを作成し、各自予想される危険や事故について記入させる。 ・できるだけ細かい部分にも注目させ、様々な可能性について考えさせる。 	<p>「次はどうか？」文科省資料 ワークシート</p>
展 開	<p>4 予想される危険や事故を発表する。</p>	<p>T「どんな事故が起こるか予想したことを発表しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人⇒グループ⇒全体という話し合い活動を持つ。 ・お年寄りや親子との接触だけでなく、両方が複合して起こる問題等も考えられるように補助発問を行う。 ・場面の人物の心理状態などにも注目させる。 ・場面の外からの危険も予想できるようにさせる。 	
	<p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小さな子が急に目の前にとび出してきてぶつかる。 ○ お母さんがあわてていて子どもを抱きかかえて、急に目の前に出てきてぶつかる。 ○ お年寄りの方がよろけて、自転車の前に出てきてぶつかる。 ○ 親子とお年寄りで歩道がふさがれてしまい、避けようとして右側の花壇とぶつかってしまう。 ○ 並んでいる家や歩道の方向から人がとび出してきてぶつかる。 		
<p>【人的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前をよく見て走行していない。 ・急いでいる。 ・お年寄りの方や親子が自転車に気付いていない。 ・お年寄りの方や親子でふさがれてしまう。 		<p>【環境要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車が走行できる歩道である。 ・歩道なので幅が狭い。 ・花壇があり、さらに幅が狭くなっている。 ・横断歩道がある。 ・住宅が建ち並んでいる。 	
			
<p>・お年寄りの方や親子との接触 ・お年寄りや親子を避けようとして花壇と接触 ・バランスを崩して転倒 ・横断歩道や住宅からの歩行者との接触</p>			
	<p>5 事故の理由を考える。</p>	<p>T「どうして事故が起きたのでしょうか？事故の原因を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が係わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 ・特に人物の心理的な要因や置かれている状況等にも注目させ、事故が起こる場合の対象者のことも考えられるようにさせる。(子どもがはしゃいでいる、お年寄りの方は音を聞き取りづらいなど) 	
	<p>○仮説を設定をする。 6 発表された危険や事故は、どのようにしたら避けられるかについて考えを発表させる。</p>	<p>T「どのようにすれば、事故にあわないでしょうか？安全な行動について考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された危険は、どのようにしたら避けられるかについて考えを発表させる。 ・なぜ事故を回避できるのか理由も一緒に発表させる。 	

	<p>○仮説を検証する。 7 安全行動の大切さを確かめる。</p>	<p>T「実際にどの方法で事故を防げるか話し合ってみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境要因を評価して安全を生み出すものが自分（たち）の行動であることを振り返りながら、6 で考えた方法的確さを確かめさせる。 ・グループで協議させ、より考えを深めさせる。 	
<p>具体的な危険回避方法</p> <p>「しっかり見る」⇒お年寄りや子ども連れの方へ近づく前に、状況や回りの障害物の確認。 「しっかり見せる」⇒近づく前に、ベル等で自転車の通行を知らせる。 「相手からの視点」⇒後方からの自転車には気付いていない、見えていない。 「安全のための行動」⇒前方のお年寄りや子ども連れの方に気を配ると共に、後方からの自転車等に注意しながら、側方を徐行する、又は降車して自転車を押せばより安全である。</p>			
<p>ま と め</p>	<p>○安全行動を適応する。 8 日常よく使う道路（歩道）について、自分のめあてを決める。</p>	<p>T「安全に自転車に乗るためのめあてを各自で決めましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された内容を歩行者や他の自転車などの図も取り入れ、みんなにわかりやすく示し、理解を深めさせる。 ・みんなで考えた回避行動をもとに、自分のよく使う道路について、めあてを考えさせる。 ・友達のめあてを参考にして、自分のめあてを修正するなどして、実践への意欲化を図る。 	
<p>事後 の 活動</p>	<p>○日常の自己実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを日常の生活の中で実践し、達成状況を振り返る。 ・実践結果は、家庭にも知らせ、日常への実践化を図る。 		

7 資料1（アンケート結果）

1 あなたの自転車の運転は上手だと思いますか？（単位：人）

ぜんぜんうまくない	あまりうまくない	どちらともいえない	少し自信がある	とても自信がある
0	1	11	8	2

2 あなたは事故にあわない自信がありますか？（単位：人）

ぜんぜん自信がない	あまり自信がない	どちらともいえない	少し自信がある	とても自信がある
0	1	12	8	1

3 あなたは、交通事故にあいそうで、「ヒヤリ」や「ドキッ」とするようなことはありましたか？（単位：人）

はい	いいえ
8	14

2で「はい」と答えた人は、そのとき何が原因でそうなったと思いますか？（単位：人）

- 青信号で渡った時に車がいきなり出てきた。
- 自分は左右をきちんと見たのに、車がとび出してきた。
- 自分は止まったのに、自転車に乗っていた大人がとび出してきた。
- スピードを出しすぎてカーブを曲がった時。
- 自転車に乗っていたおじさんが、広い道路なのによけようとせず、ぶつかりそうになった。
- 左だけを見ていて、右を見なかった。

指導案 (4/5)

○スピードを出し過ぎた。

そのとき、どう思いましたか？ (単位：人)

①相手が悪いと思った	②自分が悪いと思った	③両方とも悪いと思った	④ドキドキした	⑤反省して今度から
4	3	1	2	3

4 あなたは、家族で交通安全について、話し合ったことはありますか？ (単位：人)

はい	いいえ
13	8

5 あなたは、道路の簡単な標識（止まれなど）を意識して気を付けていますか？ (単位：人)

はい	いいえ
17	5

6 あなたは、自転車に乗るときどんなことに気を付けていますか？ (単位：人)

①スピードを出し過ぎない	②とびだしをしない	③片手運転をしない	④よそ見をしない	⑤二人乗りをしない
11	16	4	13	17
⑥荷物を積み過ぎない	⑦並んで走らない	⑧お年寄りや小さい子どもの近くでスピードを出さない	⑨自動車の間を通り抜けない	⑩一人で速くまで行かない
9	8	10	15	2
⑪早めにライトをつける	⑫両足がしっかりつくようにしている	⑬歩道を走らない	⑭事故が起きそうな場所では特に注意している	⑮時間に余裕を持って出かける
12	10	2	14	9

7 どんなことに気を付けると交通事故にあわないと思いますか？ (単位：人)

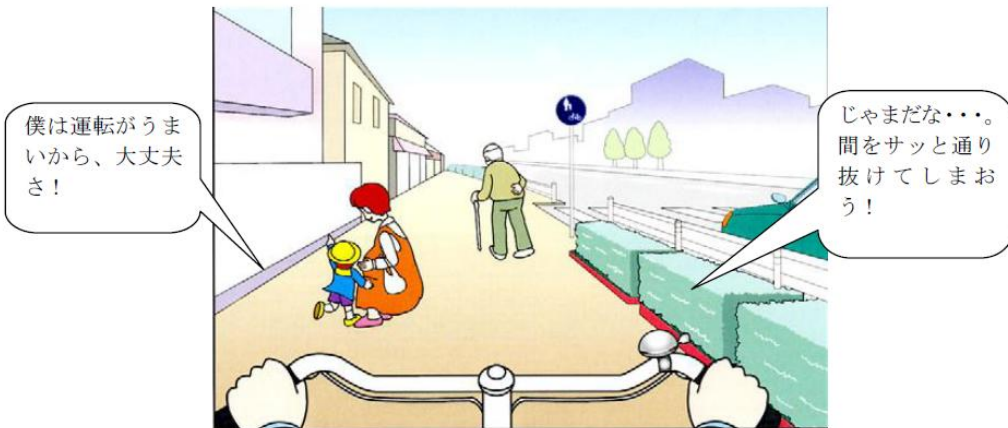
- 車、自転車、人がお互いにとび出さないようにする。
- とび出しをしない。(3)
- 交差点でまわりをしっかり見る。
- 左右に気を付けて、急がないようにする。(3)
- まわりをよく見て気を付ける。(6)
- スピードの出し過ぎに注意し、いつでも止まれるようにする。(4)
- 急カーブでスピードを出し過ぎない。
- 標識をしっかり見て、安全な運転をする。(2)
- 安全運転を心がける。
- 落ち着くように気を付けて、曲がる時は必ず止まる。
- 決められた交通ルールを守る。
- 自転車のルールを守って安全に乗ることに気を付ける。
- ライトをつける。
- 並んで走らない。

資料2(ワークシート)

題材名「自転車で歩道を走行すると？」

年 組 名 前

このまま自転車で歩道を走行するとどんな危険が予想できますか？



1 どのような危険がかかれていますか？

-
-
-
-

2 どうすれば危険を防ぐことができますか。

3 自転車で歩道を安全に走行するための「めあて」を考えましょう。

(4) 「新たな安全教育指導プログラム」の改訂

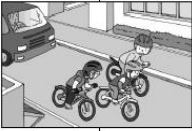
昨年度作成した小学校教師用指導資料「新たな安全教育指導プログラム」の内容をさらに活用しやすくするため一部改訂した。

(内容例)



- 指導案 (1時間扱い)
- ① 低学年：しんごうきのあるおうだんほうろをわたるとき
 - ② 低学年：あぶない！ 車のあいだからどうろをわたるとき
 - ③ 中学年：止まっている車をよけるとき
 - ④ 中学年：自てん車で下り坂を走るとき
 - ⑤ 中学年：曲がった道路を走るとき
 - ⑥ 高学年：減速した車の左側を追い抜くとき
 - ⑦ 高学年：「普通自転車歩道通行可」の歩道を自転車で行くとき
- 指導案 (短時間扱い)
- ① 低学年：こうつうルール ほこ
 - ② 低学年：こうつうルール じてんしゃ
 - ③ 低学年：じてんしゃにのるとき
 - ④ 低学年：じてんしゃでとびだしをしたら
 - ⑤ 中学年：並んで走ったり、大ぜいで走るきけん
 - ⑥ 中学年：信号むしのきけん
 - ⑦ 中学年：自てん車で狭い道から広い道へ出るとき
 - ⑧ 高学年：加害者にならないために
 - ⑨ 高学年：イヤホンを使いながら自転車で行くとき
 - ⑩ 高学年：無灯火運転の危険

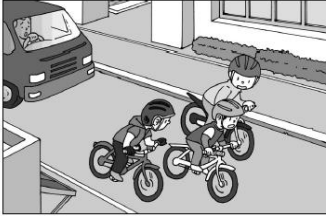
②小学校中学年 特別活動 (短時間扱い)

題材名	並んで走ったり、大ぜいで走るきけん			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・並進・集団走行の危険を知り、正しく道路走行をしようとする意欲と態度を育てる。 ・潜在的な危険を認め、自転車の安全な運転ができるようにする。 			
学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料		
<p>○問題を把握する。</p> <p>1 前題場面を知る。</p> <p>道路で自転車にのるとき、並んで走ったり、大ぜいで走ったりすると、どんな危険が起こりそうですか？</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。 ・(どんな意見も受け入れる雰囲気作り) ・並進や集団走行の危険について理解させる。 	<p>正しい自転車走行の場面動画</p>		
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車が横に並んで走っている。 ・自転車が道路の真ん中を走っている ・自転車の後ろから車が走ってくる。 ・話に夢中で前を向いて走っていない。 ▲DVDアニメソフト⑦を使って応用の学習ができます。 			
展開	<p>○場面を分析する。</p> <p>2 道路での危険を予測する。</p> <p>3 自転車の乗り方から事故を防ぐにはどうしたらよいか考える。</p>			<p>T 「道路を並んで走るとどんな危険が起こりそうですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。(なぜ危険なのか理由を明らかに) ・並進や集団走行することで、どんな事故が起こりやすいか考えさせる。 <p>T 「自転車で安全に道路を走るにはどうしたらいいですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1列で走る。 ・スピードを出しすぎない。 ・ふざけない。 ・交通ルールを守る。
まとめ	<p>○安全行動を適応する</p> <p>4 道路の正しい走り方について自分のめあてを持つ。</p>			<p>○態度面だけでなく、心理面についてもふれるようにする。</p> <p>T 「自転車で安全に道路を走るためのめあてを考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとにして、自転車走行についての自分のめあてを考えさせる。 ・本時の学習をもとに日常生活に役立てようとする意欲を持たせる。

「並んで走ったり、大ぜいで走るきけん」ワークシート

名前 _____


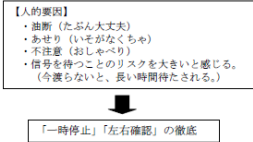
- 1 道路で自てん車にのるとき、並んで走ったり、大ぜいで走ったりするとどんな危険が起こりそうですか？ ○をつけて、ことばで書きこみましょう。



- 2 自てん車で安全に道路を走るにはどうしたらいいですか？

- 3 自てん車で安全に道路を走るための「めあて」を考えましょう。

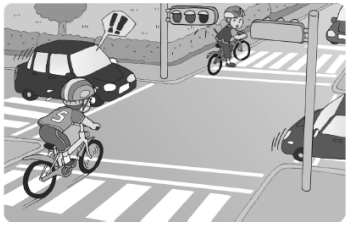
〈内容例〉


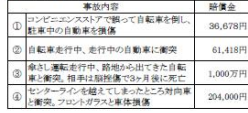
③小学校中学年 特別活動（短時間扱い）			
題材名	信号むしのきけん		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・信号の意味、交通法規の意義が理解できるようにする。 ・自転車乗車中における信号無視の危険を予測することができるようにする。 ・交通社会の一員として、ルール・マナーを守った運転ができるようにする。 		
段階	学習内容・活動内容	指導上の留意事項	資料
はじめ	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 自転車に乗っているとき、前の信号が赤色になりました。どんな危険が起こりそうですか？	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車が交差点に入ろうとしている。・信号は赤である。 ・車が動こうとしている。 ・前を行く友達に追いつこうとしている。 ▲DVDアニメソフト①や②を使って応用の学習ができます。 	
展開	○場面を分析する。 2 起こりうる事故を予測する。 3 事故の理由・安全行動を考える。	T「どんな危険が起こりそうですか？」 ・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。（なぜ危険なのか理由を明らかに） T「自転車で安全に交差点を走るには、どうしたらいいですか？」 ・原因追求をし、事故にあわないための具体的な行動を考える。 ・間違った行動や、児童が見おとしている内容について、教師が確実に補足する。	ワークシート
		【人的要因】 ・油断（たぶんど大丈夫） ・あせり（いそがなくちゃ） ・不注意（おしそべり） ・信号を待つことのリスクを夫夫いと感じる。（我慢ならないと、長い時間待たされる。） ↓ 「一時停止」「左右確認」の徹底	
まとめ	○安全行動を適用する。 4 安全行動を実践化できるようにする。	T「自転車で安全に交差点を走るためのめあてを考えましょう。」 ・各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。	

「信号むしのきけん」ワークシート

名前 _____

- 自てん車に乗っているとき、前の信号が赤になりました。どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 自てん車で安全に交差点を走るにはどうしたらいいですか？
- 自てん車で安全に交差点を走るための「めあて」を考えましょう。

③小学校高学年 特別活動（短時間扱い）			
題材名	加害者にならないために		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を起こしたときの責任と補償について理解し、自転車の安全な走行ができる。 		
段階	学習内容	指導上の留意点	資料
はじめ	○問題を把握する。 1 問題場面を知る。 自転車で歩道を通行しています。どんな事故が起こりましたか？	・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。（どんな意見も受け入れる雰囲気作り）	場面絵
		<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りとおぶつかり、けがをさせてしまう。 ・小さい子とおぶつかり、けがをさせてしまう。 ・お年寄りや小さい子とおぶつかり、壁に衝突してしまう。 ・お年寄りや小さい子とおぶつかり、転倒してしまう。 ▲DVDアニメソフト②や事故再現③を使って応用の学習ができます。 	
展開	○場面を分析する。 2 加害事故の想定ケースに絞り、責任の大きさを考える。	T「加害者になってしまったときの責任について話し合います。」 ・自転車の加害事故事例を活用し、次の4つの視点から、責任の大きさを考えられるようにする。 ①被害にあった人の痛み・苦しみ ②被害にあった人の家族の悲しみ ③加害者（自分）本人や家族のつらさ ④補償責任（下図参照）	ワークシート
		・歩道を通行するときは「（大丈夫）だろう」ではなく、「もしかしたら～」という心で危険を予測していく重要性を指導する。	
まとめ	○安全行動を適用する。 3 安全行動を実践化できるようにする	T「今までの自分の運転をふりかえり、これからも事故のない運転をするためのめあてを考えましょう。」 ・児童が、自分自身の言葉で学習をまとめる活動にする。 ・自分のこれまでの自転車運転を振り返り、具体的な改善点を目標にできるようにする。	

「加害者にならないために」ワークシート

名前 _____

- 自転車で歩道を通行しています。どんな事故が起こりましたか？


- 加害者になってしまったときの責任について話し合います。
- 今までの自分の運転をふりかえり、これからも事故のない運転をするための「めあて」を考えましょう。

(5)「自転車交通安全教育ソフト」の作成


交通状況に応じ、動画と静止画から構成され危険予測学習ソフト。児童の興味を引きつけ、参加型学習に活用できる。構成は、指導プログラム、簡易ソフトでの自転車安全マップづくり、アニメーション映像等で参加型学習を行いやすい構成となっている。

〈内容例〉

* 見たい・使いたい・作りたい *

自転車交通安全教育ソフト

日本交通安全教育普及協会



危険予測学習のプログラム①

1時間扱い		短時間扱い	
横断歩道を渡る時	ワークシート	飛び出しをしたら	ワークシート
危ない道路を渡る時	ワークシート	交通ルールとマナー	ワークシート
止まっている車をよけると	ワークシート	自転車に乗るとき	ワークシート
自転車を下り坂	ワークシート	並進・集団走行の危険	ワークシート
曲がった道路をまる時	ワークシート	信号無視の危険	ワークシート
減速した車両の左側を追い抜く危険	ワークシート	狭い道から広い道	ワークシート
自転車で歩道を走行	ワークシート	加害者にならないために	ワークシート
		イヤホンを使用しながら	ワークシート
		無灯火運転の危険	ワークシート

もどる

自転車安全マップ

- 自転車安全マップの作り方(パワーポイント君編)
- (自転車安全マップの実際(パワーポイント君))
- 自転車安全マップの作り方(ヒヤットくん編)
- 自転車安全マップの実際(ヒヤットくん)
- 自転車安全マップの指導展開例

もどる

このあとどうなる？ (交通状況のアニメーション)

左せつの車に注意	ボールを取りに
右せつはよく見て	車の中から飛び出し
歩道を自転車で走る	友だちによばれて
点めつ中の走りぬけ	回避方法(安全確認)
事故再現	
歩道走行の危険	止まっている車の危険
まがった道路の危険	信号無視の危険

もどる

(6) 調査研究委員会の開催（年3回）

◆危険予測学習用「安全教育指導プログラム」の検証と改訂

	日時・場所	協議内容
第1回	7月8日（木） 15:30～17:00 埼玉会館	本年度実施内容の検討 ・プログラムの検証について ・実施会場の選定について ・その他
第2回	9月27日（火） 13:00～17:00 上尾市立東小学校	プログラムを活用した授業の実施 および意見交換会
第3回	12月5日（月） 13:00～17:00 さいたま市立 大宮北小学校	プログラムを活用した授業の実施 および意見交換会

(7) 事業の考察と課題

①自転車交通安全教室

園児や児童を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車教室を9ヶ所で実施。児童にはこれまでの学んできたことの習慣化を図るため「ま（待つ）・み（見る）・む（無理をしない）・め（目立つ服装）・も（もしかして）」の合い言葉を指導のまとめに取り入れ、園児には「3つの左」（左側から乗る、左側を走る、左側から降りる）とブレーキ、ヘルメット着用の定着化を図った。

本教室は保護者が子どもと一緒に考える良い機会であるため、今後はより多くの保護者に参加を促していきたい。

②交通安全教育の授業研究会

「新たな安全教育指導プログラム」を活用した公開授業と研究協議を通して、本プログラムについての意見交換を行った。授業を担当された教師は小学校近隣の危険個所の画像や映像を取り入れ、児童がより学習効果を高められる身近な題材となる工夫も改訂を進める上で大変参考となった。

③自転車交通安全教育ソフト

「新たな安全教育指導プログラム」のデータとその応用編として危険予測学習用アニメーションの素材、自転車安全マップ作成ソフトが活用できるDVDを作成。

今後はその活用と検証を行い、現場の教師に気軽に活用してもらえるよう内容の充実を図っていきたい。

自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト
報告書

発行 平成24年3月
財団法人日本交通安全教育普及協会
〒106-0031
東京都港区西麻布3-24-20
TEL 03-3478-1831 (代)
FAX 03-3478-1835
